継続と連携、本業をいかした企業の芸術文化活動を表彰 「メセナ アワード 2012」受賞企業決定

本件は10月4日(火)14:00、文部科学記者会・関西プレスクラブにて資料を配布をしています

公益社団法人企業メセナ協議会(東京都港区芝 5-3-2、理事長:福地茂雄)は、全国から寄せられた108件の応募の中から、「メセナ アワード 2012」の受賞活動7件を決定しました。11月22日(木)14時～スパイラルホール(東京・表参道)での贈呈式にて授与します。

2012年度のメセナアワードでは、長年にわたる継続的な取り組みが注目を浴び、企業活動や文化活動を通じ、地道に培ってきたノウハウやパートナーシップをいかした点が高く評価され、受賞につながりました。東日本大震災復興支援においても、震災以前からの活動やネットワークを活用し、企業の創意工夫により被災地を勇気づけようとする活動が多く見られました。また、本業の強みを芸術文化振興に活用する取り組みが成果を上げています。さらに近年、地域社会に貢献するメセナ活動が活発化する傾向が継続しており、2012年にも地域へ参画していこうとする取り組みや全国的な広がりのある活動が受賞しました。

また惜しくも受賞を逃した活動も、ソーシャルビジネスの手法によるまちづくりや、多彩な顕彰事業、茶の湯や和服など伝統的な生活文化に根ざした活動、音楽や文芸によるコミュニティーの活性化など、多様な展開が見られ、今後も日本の芸術文化を活気づける活動として注目されます。

贈呈式では、各受賞企業に表彰状とトロフィーを授与します。また例年好評の各企業トップによる受賞スピーチならびに選考委員の選考評を行います。ぜひ取材をお願いいたします。

■「メセナ アワード 2012」選考結果 ※賞名/企業名(実施地域)/受賞活動。企業名五十音順

【メセナ大賞部門】 ※最も高く評価された1件に「メセナ大賞」を贈呈。他の賞については、特に評価の対象となった点を賞名に反映

メセナ大賞	アサヒビール株式会社 (全国) アートNPOの活動基盤強化への多様な支援と協働
歴史をひもとく賞	キヤノン株式会社 (京都ほか) 「綴プロジェクト」の実施
文化の映写機賞	株式会社千葉銀行 (千葉県) ちばぎんフィルムライブラリー
支援のこころ賞	トヨタ自動車株式会社 (東北各県) 「ココロハコブプロジェクト～芸術・文化を通じた復興支援活動～」
四季のそよかぜ賞	株式会社帆風 (青森県・八戸) 帆風美術館の運営
未来のうけざら賞	三菱地所株式会社/株式会社イムズ/株式会社西日本新聞社 (福岡県) 三菱地所アルティアムの運営、展覧会の企画

【文化庁長官賞部門】

文化庁長官賞	東日本電信電話株式会社 (東京都) NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 活動
--------	--

■「メセナ アワード 2012」受賞活動の紹介

<p>【メセナ大賞】 アサヒビール[株] アート NPO の活動基盤強化への多様な支援と協働</p> <p>■企業プロフィール(2011.12 現在) 本社所在地: 東京都墨田区 資本金: 200 億円 業種: 食料品 設立年: 2011 年(現アサヒグループホールディングス[株]は 1949 年設立。2011 年に純粋持株会社制へ移行) 従業員数: 3,145 人 URL: www.asahibeer.co.jp/csr/soc/activity</p>	<p>アサヒビールは「未来」「市民」「地域」を方針として、専門性や機動力が持ち味のアート NPO とのパートナーシップによるメセナ活動に取り組んでいる。</p> <p>アートの方で地域再生をめざす全国各地の活動を支援する「アサヒ・アート・フェスティバル(AAF)」が10年目を迎えた2011年、これまでに培われてきたネットワークが、東日本大震災に際して大きな力を発揮することとなった。</p> <p>「アートによって結ばれた仲間たちを応援するために」と題された AAF 支援宣言が出され、人的支援や活動支援募金、宮城県南三陸町で行われていた「きりこプロジェクト」の全国展開などが実施されている。その逸早い行動は、NPO の主体性を重視しながら、基盤強化への継続的な支援と協働を行ってきた成果といえるだろう。</p> <p>同年夏に始動した「世界ネットワーク・プロジェクト」によって、そのつながりはアジアへも拡大。インドネシア、シンガポール、韓国、タイ、中国(香港)、マレーシア、フィリピンから訪れたクリエイターとの東北ツアーを機に交流が始まり、双方向性ある活動が展開している。</p> <p>蓄積された活動事例等をまとめた書籍の発行や、データベースのソーシャル・アーカイブ化を進めるなど、アートと社会のかかわりに新たな価値をもたらす提案の数々は、多方面からの期待を集めている。</p> <p>アートが市民の豊かな創造性を引き出すことにより、自分たちの力で社会課題にアプローチしていく。それら活動への支援は一企業のメセナの枠組みを超え、よりよい社会を創造しようとする大きな市民活動の流れを生み出している。</p> <p>【評価ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各地の課題に取り組むアート NPO の支援を継続的に行い、全国的な交流を促している。 ●多彩な広がりを持つ活動の成果をアーカイブし、発信しようとしている。
<p>【歴史をひもとく賞】 キヤノン[株] 「綴プロジェクト」の実施</p> <p>■企業プロフィール(2011.12 現在) 本社所在地: 東京都大田区 業種: 電気機器 設立年: 1937 年 資本金: 1,747 億 6,200 万円 従業員数: 2 万 5,449 名 URL: www.canon.jp</p>	<p>キヤノンは、鑑賞する機会が限られている国内の文化財や海外に渡った屏風・襖絵などの日本の貴重な文化財の高精細複製を行う「綴プロジェクト(正式名称:文化財未来継承プロジェクト)」という社会貢献活動を2007年より実施している。</p> <p>デジタルカメラでの多分割撮影や高精度な色合わせの開発、日本画の繊細で立体感のある表現を再現するプリンティング技術など最新のデジタル技術を投入し、同社ならではの取り組みを継続的かつダイナミックに展開している。</p> <p>複製品は、撮影したデータを画像処理し、特製の和紙に出力した後に、京都に伝わる伝統工芸の技を融合してオリジナルに限りなく近い形で完成させ、文化財の元の所有者や文化財にゆかりのある地方自治体などへ寄贈される。</p> <p>また一般への公開も目的としており、間近で鑑賞できることが大きな魅力だ。例えば、京都の建仁寺に寄贈した海北友松筆「建仁寺方丈障壁画五十面」(重文)は、オリジナルの文化財は保存のために掛軸に作り</p>

	<p>直されているが、綴プロジェクトによる複製品は、もとのかたちである襖絵として再現し一般公開している。また、他の寄贈した作品は、美術館・博物館などで教育普及プログラムにも活用されている。</p> <p>従来、日本の絵画や書物は模写により研究・普及がなされてきたが、現代ではさまざまなかたちの複製を通じて芸術に触れる機会が増え、質の高い複製品も文化振興の役割を担っている。オリジナルの文化財への敬意を払いつつ、自社の技術力をいかした新たな挑戦は、多くの人々に文化の扉を開き、歴史を未来へと綴っていく。</p> <p>【評価ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●優れた技術力をいかして、日本の貴重な文化財の保存に貢献する取り組みである。 ●伝統芸術の技術継承・研究を進め、広く鑑賞機会を提供し教育普及にも役立っている。
<p>【文化の映写機賞】 [株]千葉銀行 ちばぎんフィルムライブラリー</p> <p>■企業プロフィール(2012.3 現在) 本社所在地: 千葉県千葉市 資本金: 1,450 億円 設立年: 1943 年 業種: 銀行 従業員数: 4,491 人(連結) URL: www.chibabank.co.jp/company/relationship/film_library</p>	<p>「ちばぎんフィルムライブラリー」は、1963 年、千葉銀行の創立 20 周年にあたりスタートした。テレビが普及してきた当時、映画が娯楽として人気を集める中で、気軽に上映会が行えるようにと 16 ミリフィルムと映写機を貸し出したのである。当初より「長く残り、継続して行える地域に密着した活動」との趣旨で、来年で 50 年の節目を迎える。</p> <p>千葉銀行が保有する 16 ミリフィルムは 423 本、映写機 25 台。DVD/VHS が 293 本あり、ビデオデッキ・プロジェクターが 9 台、スクリーンも揃う。歴史・地理、自然・科学、教育・訓練、芸術、スポーツ、保健衛生、劇映画、アニメーション、ドキュメンタリーなど幅広い分野の映像があり、千葉の自然や文化をテーマに制作した独自の作品もある。国内 174 の店舗を窓口で無料で貸し出し、1 回につき 5 本、4 日を上限としており、幼稚園や公民館、高齢者施設の利用が多く、特に夏休みやクリスマスの時期に集中するという。</p> <p>レンタルビデオが一般化した今日だが、16 ミリフィルムによる映写会はレトロな雰囲気を醸し出し、利用者に好評だ。貸し出しに際しては映写機の使い方を講習し、返却後はメンテナンスを行う。16 ミリフィルム・映写機ともに製造が中止された現在、同行が持つそれらは貴重な資料となっており、専門の業者が恒常的に点検・補修している。また DVD/VHS は再生機とアンプ、スピーカーをプロジェクターと一体化し、運びやすい形状に改良した。こうした配慮も利用者に喜ばれるところだ。</p> <p>長年にわたる地道な活動で地域に親しまれるとともに、貴重な映像文化の継承にも貢献してきたのである。</p> <p>【評価ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●映写会によるコミュニティーの形成を促し、地域とのコミュニケーションをはかっている。 ●半世紀におよぶ活動の継続により、貴重な映像資料の保管と活用に貢献している。

<p>【支援のこころ賞】 トヨタ自動車[株] 「ココロハコブプロジェクト～芸術・文化を通じた復興支援活動～」</p> <p>■企業プロフィール(2012.3 現在) 本社所在地: 愛知県豊田市 業種: 輸送用機器 設立年: 1937 年 資本金: 3,790 億 5,000 万円 従業員数: 69,148 名 URL: www.toyota.co.jp</p>	<p>2012年3月11日、宮城県南三陸町の総合体育館。東日本大震災犠牲者南三陸町追悼式で、町内5校の小学生135名の歌声が響いた。</p> <p>この歌は、トヨタ自動車の社会貢献活動「トヨタ・子どもとアーティストの出会い(以下「子ども×アーティスト」)」のワークショップで子どもたちが創作したものだ。</p> <p>東日本大震災に際し、同社は人やモノだけではなく被災地に「支援の心」を運びたいとの考えのもと「ココロハコブプロジェクト」を立上げ、さまざまな支援活動を行っている。芸術・文化を通じた復興支援活動ではこれまでのネットワークを活用し、活動の拡充を図るとともに、被災地の負担にならない、本当に必要な支援を心がけてきた。</p> <p>長年にわたるメセナ活動「トヨタコミュニティコンサート」では、全国のアマチュアオーケストラの「音楽で被災地の皆さんの力になりたい」という声により、13カ所の復興支援コンサートが実現。04年から続く「子ども×アーティスト」では、コーディネーター・吉川由美氏が南三陸町でアート活動を行っていたことが縁となった。学校関係者やコーディネーターとの会議を重ね、11月、現地から「追悼式で、子どもたちの歌で町の人たちを元気づけたい」との発案を受けた。大事にしたのは、子どもたち自身の言葉と旋律による曲づくり。「町の人たちや自分たちがこの一年がんばったなあと思うこと」などをテーマに紡ぎ出された言葉が歌になった。</p> <p>子どもたちの歌声は、被災地の方々のこころに勇気を運んだ。復興への長い道のりの中、同プロジェクトは長期的な継続を目指し、震災2年目の支援活動を進めている。</p> <p>【評価ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●震災後の早い段階で活動を開始し、被災地の状況を見極めながら支援に取り組んでいる。 ●メセナ活動の蓄積をいかし、アーティストやアートNPOとの協働を通じた多様な活動で被災地の方々を勇気づけている。
<p>【四季のそよかぜ賞】 [株]帆風 帆風美術館</p> <p>■企業プロフィール(2012.4 現在) 本社所在地: 東京都新宿区 資本金: 2 億 9,000 万円 設立年: 1980 年 業種: その他製品 従業員数: 442 人 URL: www.vanfu.co.jp/service/museum.html</p>	<p>青森・八戸駅から車で約 20 分、八戸北インター工業団地にある帆風八戸センター内 1 階に、2008 年、帆風美術館は開設された。東京都内で営業する印刷会社の帆風が八戸に拠点を持って 15 年、地域へ貢献したいとの思いから設けた原寸の複製画展示を主体とする美術館である。</p> <p>主に江戸期の日本美術をテーマに、同社開発のデジタル光筆画の技術で複製画をつくる。「たかが複製」を逆にとり、国宝や重要文化財の掛け軸や屏風、絵巻物や画帖が一堂に会する展覧会を構想。博物館や美術館から作品のポジフィルムを借り、あるいは撮影を行って 2 点製作し、1 点は所蔵先に寄贈して教育普及活動などに活用されている。</p> <p>開館記念展は「川端康成が見つめた三大南画家展」で、文豪が所有した国宝 3 点を中心に企画を膨らませた。第 2 回は「江戸時代動物園」、俵屋宗達や伊藤若冲ら 71 名の絵師により描かれた動物画 129 点が揃った。第 3 回の「妙・江戸時代人に出会う展」は、渡辺崋山や菱川師宣らの肖像画、風俗画を展示。4 回目となる昨年は、八戸藩主・南部信房公が俳諧をたしなんだことから「美術歳時記—日本人の自然観照／春・夏・秋・冬—」として、絵と俳句が描かれた「俳画」と季語にまつわる絵画</p>

	<p>を展示した。</p> <p>毎回、専門の監修者が加わり、詳しい解説付きの図録も発行する。こうして本物では実現できない企画展を年 1~2 回、観覧無料で内容を変えながら長期にわたり開催し、地元だけでなく遠方からも日本美術の愛好者が訪れている。</p> <p>美術館運営には八戸の文化関係者がかかわり、友の会も組織されて、お茶会などのイベントも定着してきた。社業をいかした取り組みが、地域にやわらかな風をもたらしている。</p> <p>【評価ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●複製を前提にユニークな企画を実現し、日本美術への関心を高めている。 ●社有施設を地域の文化拠点として公開するとともに、自社の技術をいかした活動で独自性を追求している。
<p>【未来のうけざら賞】 三菱地所[株] (東京都) / [株]イムズ (福岡県) / [株]西日本新聞社 (福岡県) 三菱地所アルティアムの運営、 展覧会の企画</p> <p>■企業プロフィール(2012.3 現在) ※三菱地所(株) 本社所在地: 東京都千代田区 資本金: 1,413 億 7,321 万円 設立年: 1937 年 業種: 不動産 従業員数: 658 人 URL: www.artium.jp (三菱地所アルティアム)</p>	<p>“アートのスタジアム”を意味する「三菱地所アルティアム」は、1989 年、現代アートの発信拠点として九州最大の繁華街、福岡市・天神に誕生した。三菱地所初の本格的商業ビル「イムズ (Inter Media Station)」の 8 階にある 144 m²のギャラリーは、ビルの基本コンセプトに則り、イムズと九州地方ブロック紙・西日本新聞社が協力して企画・運営し、年間約 10 本、開設以来 23 年間で 250 を超す展覧会を開催。2012 年7月には来場者が 100 万人に達した。</p> <p>ギャラリーの最大の特色は、公立美術館に先駆けて、国内外で活躍する現代アーティストの先見性・革新性ある展覧会を福岡から紹介し続けてきたことにある。D・ホックニー(89 年)、C・ボルタンスキー(92 年)、ナム・ジュン・パイク(96 年)、横尾忠則(94、99 年)、草間彌生(96 年)、アルティアムでの展覧会後に飛躍的に知名度が高まった蔡国強(91 年)や奈良美智(96 年)、会田誠(99 年)のほか、地元九州に縁ある柳幸典、副田高行、東信、牛島光太郎らを取り上げてきた。美術に限らず、建築やデザイン、映画、食など、現代の多様な芸術表現を、既成の評価・ジャンルにとらわれずに発信するジャンルフリーの理念で、意欲的な企画に取り組む。観客層は 20 年のうちに着実に広がり、地元教育機関との連携や教育普及への取り組み強化もあって、高校・大学生の来場も増えている。</p> <p>内外の先端のアートシーンを、未来に残すべき文化的表現か吟味し、逸早く福岡から世界に向けて発信し続けるその姿勢は、新しい表現の受け皿として、今後も未来の文化創造を担っていく。</p> <p>【評価ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国内外の新しい芸術表現に触れる場を、早くから独自の視点で意欲的に企画・提供してきた。 ●四半世紀にわたり、民間による九州・福岡からの文化発信拠点として重要な役割を果たしている。

<p>【文化庁長官賞】 東日本電信電話[株] NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 活動</p> <p>■企業プロフィール(2012.4 現在) 本社所在地: 東京都新宿区 資本金: 3,350 億円 設立年: 1999 年 業種: 情報・通信 従業員数: 5,900 人 URL: www.ntt-east.co.jp www.ntticc.or.jp/(ICC ホームページ)</p>	<p>東京・初台にある NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] は、日本の電話事業 100 周年を機に構想された。1991 年、電話やファクシミリを通じたアートプログラム「電話網の中の見えないミュージアム」を皮切りに数々のイベントを経て、97 年に ICC を開設。以来、メディア・アートを牽引する拠点として多彩な取り組みを展開してきた。</p> <p>毎年、内容を変えながら長期開催する「オープン・スペース」では、メディア・アートの代表的な作品、ヴァーチャル・リアリティやインタラクティブ技術などを用いた作品を展示。また新進アーティストに注目する「エマージェンシーズ！」コーナーや、産官学の共同プロジェクトによる実験的な試みを紹介している。あわせて、現在のメディア・アートの動向やコミュニケーションをテーマとする企画展を開催。作品展示だけでなくトークやシンポジウム、ワークショップ、パフォーマンスなどを組み合わせ、幅広い層の関心を集める。</p> <p>夏は「ICC キッズ・プログラム」で、子どもたちにメディア・アートのおもしろさを伝える。子ども自らが考え、体験し、想像を膨らませる内容が好評で、多くのリピーターが訪れている。</p> <p>さらにウェブ上での研究会や動画投稿イベント、映像記録やインタビューの公開など、オンラインでも世界を結びつけ、活動成果を発信し、情報交流をはかるセンターとして機能してきた。</p> <p>著しいテクノロジーの革新に伴い新たな表現が生まれ、従来の枠組みを超えたコミュニケーションが広がる。ICC の活動が、科学と芸術の対話が未来に開く可能性を今後も提示し続けていくことを期待したい。</p> <p>【評価ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本のメディア・アートの拠点として逸早く活動を始め、ネットワークを通じて最先端の動向を紹介してきた。 ●子ども対象のプログラムや大学等との連携により、メディア・アートの裾野を拡大している。
--	---

■「メセナ アワード 2012」概要

公益社団法人企業メセナ協議会が 1991 年より実施する、企業・企業財団の優れたメセナ活動を顕彰する事業。本年 22 回目を迎えた「メセナ アワード 2012」では、4 月から 5 月末にかけて行った全国公募に対し、108 件(99 社・団体)の応募がありました。これらの応募活動について外部の専門家からなる選考委員会により検討を行い、本年の受賞企業・活動を決定しました。

募集期間: 2012 年 4 月 1 日～5 月 31 日

募集部門: **【メセナ大賞部門】** 芸術文化振興に高く貢献したメセナ活動
【文化庁長官賞部門】 芸術文化振興に高く貢献し、かつ地域活性や、次世代育成に関わるメセナ活動

応募資格: 日本国内に所在する企業および企業財団が、2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日の期間に行ったメセナ(芸術文化支援)活動。自薦および他薦にて応募を受付。

応募総数: メセナ大賞部門・文化庁長官賞部門: 108 件(99 社・団体)

選考ポイント: 【メセナ大賞部門】芸術文化の向上・普及への貢献度／地域文化の醸成／企業の主体性・独自性／活動の発展性・革新性／継続性など
【文化庁長官賞部門】 企業をとりまく人々(社員、地域住民、子どもたち等)の「文化力」向上に対する貢献度／地域や社会への発信力／企業と自治体、NPO、学校等との連携度

選考委員: 坂本光司 法政大学大学院政策創造研究科教授
榎木野衣 美術批評、多摩美術大学教授
福岡伸一 生物学者、青山学院大学教授
松岡正剛 編集工学研究所所長、イシス編集学校校長
茂手木潔子 有明教育芸術短期大学教授 [以上五十音順、敬称略]
福地茂雄 企業メセナ協議会理事長

※文化庁長官賞部門の選考には、文化庁担当者が加わりました

■新作トロフィー発表!

メセナアワードでは、3年ごとに若手作家に新作トロフィーを依頼・制作しています。本年の贈呈式では、作家の川上幸子氏出席のもと、新作トロフィーが発表・授与されます。

【制作コンセプト】「relation」

芸術文化を通して、人々が分野を超え時を超え繋がっていかれるよう願いを込め、一本の線を積み重ねることで個々のトロフィーの図像がひとつに繋がって紡がれてゆくネットワークを制作します。それぞれの取り組みはもちろん、それが連なった時にも、また別の大きな夢を描けるよう、繋がり受け継がれるような絆が結ばれることを願います。

【作家プロフィール】川上幸子(かわかみ・さちこ)

1984年生まれ。2009年京都造形芸術大学大学院芸術表現専攻修士課程修了。大学では一貫して彫刻を学ぶ。「知覚と造形」をテーマとし、近年は特に「知覚における“見え”」を主軸に、「目で触れる」感覚を追った造形作品を制作。ミニマルな方法論・素材の特性・描画技法の組み合わせで、平面の支持体の中に視覚的触感のある図像を生み出している。10年「SICF11th」にてスパイラル奨励賞を受賞。

■公益社団法人企業メセナ協議会

企業によるメセナ(芸術・文化振興による社会創造)活動の推進を目的として、1990年2月に発足した民間の公益法人。企業のメセナへの意欲を高め、社会のメセナに対する理解を深めるために、1.促進・普及、2.情報集配・仲介、3.調査・研究、4.顕彰、5.協力・連携、6.助成等を行う日本で唯一のメセナ専門の中間支援組織。会長:福原義春([株]資生堂名誉会長)、理事長:福地茂雄(アサヒグループホールディングス[株]相談役)。正会員134社・団体、準会員37団体(2012年7月現在)。

【本件に関するお問い合わせ先】

公益社団法人企業メセナ協議会 広報担当:松村・若林 /メセナ アワード担当:坂本・倉知
TEL: 03-5439-4520 FAX: 03-5439-4521 E-mail: award@mecenat.or.jp
〒108-0014 東京都港区芝 5-3-2 アイセ芝ビル 8階 URL: <http://www.mecenat.or.jp/>